

## 令和4年度入学式 校長式辞（4月11日（月））

湯の岳を気高き姿を仰ぎ見る、さはこの丘に、さわやかな春の風が吹き、新しい笑顔の花が咲いております。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

私たち教職員はもちろん、二学年、三学年の生徒も含め、いわき湯本高等学校全体で、皆さんを心から歓迎いたします。

保護者の皆様、お子様の御入学をお喜び申し上げます。まぶしいばかりに成長したお子様を目にし、さまざまなことが思い出され、胸を熱くされているのではないのでしょうか。

県議会、PTA、教育後援会、同窓会から御臨席を賜り、御来賓の皆様に厚く御礼申し上げます。本校の開校に当たり、御支援と御協力を賜り、感謝申し上げます。

新入生の皆さん、伝統ある湯本高等学校と遠野高等学校のよき伝統と実績、熱い思いを引き継ぎながら、新しいいわき湯本高等学校の新しい歴史と伝統をつくりましょう。

さはこの丘の本校舎で学ぶ新入生の皆さん、ともに湯の岳を仰ぎ見る、あかさかの丘の遠野校舎で学ぶ仲間と力を合わせ、いわき湯本高等学校という「新しい風」を吹かせましょう。

いわき湯本高等学校での三年間を素晴らしいものにするためにはどうすればよいのでしょうか。

そのためには、「ありがとう」と言える・言ってもらえる人になること、「地域とともにある学校」をつくること、「学校づくりは自分づくり」というプロジェクトに主体的に参加することの三点が大切です。

まず、魔法の言葉「ありがとう」についてです。

自分から「ありがとう」と言えるためには、いろいろな人にお世話になっているという謙虚な気持ち、感謝する心、思いやりの心、「友愛」の心を持つことが必要です。

周りの人から「ありがとう」と言ってもらえるためには、いろいろなことに挑戦する力、今までできなかったことをできるように努力する力、「創造」する力が必要です。

「ありがとう」と言える。「ありがとう」と言ってもらえる。この二つのことができる人こそが、夢や理想を持った人、「自立」した人です。

これからの三年間で、「友愛の心」を持ち、「創造する力」を身につけ、「自立」した人になることを期待します。

次に、「地域とともにある学校」についてです。湯本高等学校も、遠野高等学校も、地域の深い愛情と大きな期待によって支えられながら、地域を愛し、地域に愛され、地域を支える人を育ててきたという伝統があります。

両校のよき伝統を引き継ぐ、いわき湯本高等学校も、地域に根ざした学校となること、また、皆さん一人一人も、地域を誇りに思える人、地域に応援してもらえる人、地域に貢献できる人になることを期待します。

最後に、「学校づくりは自分づくり」についてです。

「これまでの自分」を「よりよくする」「もっと高める」ことが「新しい学校の伝統・歴史をつくる」ことにつながります。

新しい学校づくりという「チャンス」を生かすことによって、それまで気づかなかった「新しい自分の可能性」を発見し、磨き上げ、成長することができます。

「学校づくりは自分づくり」というプロジェクトは、他校にはない、「いわき湯本ならではの」教育です。このプロジェクトに「主体的に」参加し、夢の実現につなげましょう。

「ありがとう」と言える・言ってもらえる「新しい学校づくり」を通して、校訓「自立・友愛・創造」という3つの力を身につけ、「地域」を支える核となって活躍する、社会で貢献できる人材となり、一人一人の夢を実現する「新しい自分づくり」につなげ、素晴らしい三年間にしましょう。

いわき湯本高等学校の教職員も全力で応援します。一生懸命頑張る・努力する皆さん一人一人を、心を込めて、力の限り、粘り強く支えます。愛情あふれる、指導力のある教職員がそろっています。

皆さん一人一人の頑張り・奮闘努力が、いわき湯本高等学校の歩み・伝統となります。

保護者の皆様、ご来賓の皆様、どうぞよろしく願いいたします。

「明日への扉を開き、新たな時代（とき）」を、さあ、ともに行こう。輝く未来に向かって、頑張れ、いわき湯高生。

令和四年四月十一日

福島県立いわき湯本高等学校長 箱崎兼一